

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東北)	良くなる	都市型ホテル（経営者）	・現在、大規模な改装リニューアルを実施している。それに伴い、総来客数が伸びることを前提として、身の回りの景気は良くなるとみている。
		タクシー運転手	・新規に水族館がオープンしたり、地下鉄の新路線が開通したりと、景気が悪くなる要素は見当たらない。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・プレミアム付商品券によって、今後は更に消費行動が高まるとみている。また、マネーの循環が良くなり、景気はさらに良くなるのではないかと。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・いよいよ当地でもプレミアム付商品券が発売される。各商店ははかばか期待を持っており、更なるサービスの検討に入っているところもある。
商店街（代表者）		・プレミアム付商品券が良く売れており、積極的に利用されている。各中心市街地の商店街並びに大型店でも来客数が増えており、この傾向は9月まで継続するとみている。	
商店街（代表者）		・7月1日よりプレミアム付商品券が発行されるため、短期的に消費を押し上げる材料となることが期待できる。	
一般小売店〔医薬品〕（経営者）		・地域柄、気候が良くなると客の来店頻度が増える傾向がある。来店の度に買物が発生するため、夏場の間は良くなるとみている。	
百貨店（総務担当）		・マーケット全体として、株高やボーナスの支給により消費者の動きが少し良くなっていくのではないかと。また、地方においては、行政がプレミアム付商品券を発行しており、前年以上の規模で消費喚起に取り組んでいる。当然、その分は消費に回ってくるため、うまく取り込めるようにしたい。	
スーパー（店長）		・プレミアム付商品券の利用期限が10月31日までであり、効果が期待できる。	
コンビニ（エリア担当）		・プレミアム付商品券やプレミアム付宿泊券の発行により、消費が活発になるとみている。	
コンビニ（エリア担当）		・当エリア内において、競合店の減少など来客数が微増する要因が若干ながらあるため、やや良くなるとみている。	
コンビニ（エリア担当）		・競争店の出店ペースは落ち着いてきており、商圈内人口も増加傾向にある。	
コンビニ（店長）		・地域トレンドとして、配達サービスを行う店舗が増えている。夏季シーズンは客単価が上昇する時期であり、差別化の一環として、そうしたサービスにも取り組んでいきたい。	
衣料品専門店（経営者）		・サマーセールが本格化する時期と同時にプレミアム付商品券の販売があるので、それによる来客数の増加を期待している。	
家電量販店（店長）		・プレミアム付商品券に期待している。	
家電量販店（従業員）		・来客数は増加傾向にあり、今後も継続して増えていくとみている。	
乗用車販売店（経営者）		・消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要の気配がある。	
乗用車販売店（従業員）		・軽自動車税増税の影響は大分薄らいできています。今後は最悪の状況から少しは抜け出していくのではないかとみている。	
乗用車販売店（店長）		・各メーカーの新型車投入が控えているため、客の購入意欲も若干上向きになるとみている。	
住関連専門店（経営者）		・客の様子からは、消費税増税に大分慣れた感がある。消費税を反映させた販売価格にも驚かなくなっており、少しは販売量が増えるのではないかと。	
住関連専門店（経営者）		・大きな祭りがあり、プレミアム付商品券も発売となるので、非常に期待が持てる。	
その他専門店〔食品〕（経営者）		・ボーナス商戦も始まるため、多少は良くなるとみている。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）		・7月から市発行のプレミアム付商品券が発売されるため、消費刺激策として期待している。	
高級レストラン（支配人）	・賞与などで個人消費喚起が図られるのではないかと。また、夏祭りが盛んになる時期であり、観光客などが見込めるため期待している。		
一般レストラン（経営者）	・今が底の状態であり、梅雨が終わって気温も暖かくなれば、客の出足が良くなるのではないかと。		
観光型旅館（経営者）	・7月から本格的にプレミアム付宿泊券が使用されるため、多少なりとも消費行動がプラスに転じるとみている。		
観光型旅館（スタッフ）	・プレミアム付宿泊券が発売されることで、旅行に向けて動き出す客は必ずいるとみており、期待している。		

	都市型ホテル（スタッフ）	・大きなイベントは無いものの、比較的天候が安定していること、JRの会員キャンペーンが開始されることから、首都圏の客がようやく当県に目を向ける傾向が出てきている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約の進捗状況が好調であり、予約以外の客の動きも活発な月が続いている。この傾向は変わらず継続しており、上向きそのまま推移していくとみている。また、消費税増税による反動減のあった前年と比較すれば前年比は良くなるが、プラスで客に支持される商品の提供を行い、更なる取り込みを行う必要がある。
	旅行代理店（経営者）	・3か月後くらいからは地域消費型や地方創生の交付金などの影響が表れるとみており、今後は旅行業界も少しは良くなっていくのではないかとみている。
	通信会社（営業担当）	・ボーナスの時期であり、また、投資する中小企業が増えてきているため、その恩恵が従業員に還元されれば、景気は若干上向きになるとみている。
	観光名所（職員）	・客単価は上昇している。また、来客数の伸び悩みについても対策を講じている。このまま客単価を維持しつつ来客数が戻りさえすれば、かなりの売上が戻ってくることを期待される。
	住宅販売会社（経営者）	・太陽光発電のための1,000坪単位での土地の買付け依頼が多く発生しており、多少時間を要しているが、確実な工事受注につながっている。
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・今後、受付件数が前年実績を上回って更に工事受注へとつながれば、売上也増えていくとみている。
変わらない	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・一部の輸出産業が良いと言われているが、株主總會の様子をうかがっても、引き続き減収減益の傾向にある。しばらくは一般的な消費マインドに変化はないとみている。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・プレミアム付商品券が使える間は景気が良いとみている。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・大都市の一部の企業は非常に景気が良いといわれているが、地方にはまだまだお金が回っていない状況である。隣のコンビニでも前年比20%も売上が減少していると店長がよくこぼしている。
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・今の状況では、真夏が到来しても夏用寝具などの需要が伸びるとは考えにくく、当分の間は買い控えが続くとみている。
	百貨店（営業担当）	・主力商品である婦人服の回復はまだ先となる。一方で紳士服、食品は堅調に推移するとみており、トータルとしての状況は変わらない。
	百貨店（営業担当）	・プレミアム付商品券の発行により若干の消費活性化が期待できるが、その後はまた消費が落ち着く傾向になるとみている。
	百貨店（買付担当）	・客単価が上昇しない状況が長く続いており、改善する気配がみられない。
	百貨店（売場担当）	・今、地方の百貨店は非常に厳しい状況である。百貨店らしくと今までと同じことをしていても売上は増やせない。大手取引先メーカーも撤退し、量販やオンラインショップに転換しているという情報もある。時代の流れにスピードを持って柔軟に対応していかなければならない。
	百貨店（経営者）	・夏のクリアランスセールは年々集客力がダウンしている。また、セールは短期集中型となり、定価販売にシフトしている。そのため、客単価は上昇するものの、販売量の減少により全体的な変化はないとみている。
	百貨店（経営者）	・全体的な人口減少、高齢化の傾向に加えて、地方では流出人口が増加傾向にある。有効求人倍率の高止まりも働く世代の縮小が要因であり、優秀なスタッフはなかなか採用できない状態である。
	百貨店（経営者）	・地方ではベースアップなどの恩恵がそう多くないことから、個人消費を回復させるだけの材料が見当たらない。ただし、ギフト商戦は例年と変わらない動きであり、必要なものを中心に消費するという流れは当面変わらないものとみている。
	スーパー（経営者）	・ボーナスが出て消費に動きがみられていない。
	スーパー（経営者）	・雇用状況の改善が進み、給与、賞与は前年を上回りつつあるようだが、商品の買上点数の増加にはつながっていない。末端消費の改善が進むことを期待したいが、消費回復を実感するには、もう少し時間がかかるようである。
	スーパー（経営者）	・円安による値上げや競合店のオープンなどが続いており、状況は厳しさを増している。そのため、お盆による帰省客で地元の人口は増加するものの、ほとんど変化の無い状態が続くとみている。

スーパー（店長）	・新商品などは発売当初の動きは良いものの、どれも長続きはしない。また、少しでも良い反応があると聞いて真似をした集客目的のイベントも、ことごとく失敗に終わっており、残った商品の処分に追われている。客の根強い節約志向は長く続きそうである。
スーパー（店長）	・まだまだ節約ムードが残っており、客は価格の安いものや特売品だけを買っていく。それほど景気が良くなっているとみていない。
スーパー（総務担当）	・来客数が伸びた分だけ買上点数も伸びているが、客単価、1品単価はむしろ下がっている。今後はいかにこれらが伸びるかがポイントである。
スーパー（営業担当）	・お盆商戦を前にして、今後予想される食品やガソリン価格の値上がりが消費に与える影響を懸念している。
スーパー（営業担当）	・店舗によって好不調のばらつきがあるが、全店の数値を単純前期比ではなく移動平均でみた場合、既存店ベースで売上、来客数、買上点数共に、数値が大きく伸長するような傾向はみられていない。
コンビニ（経営者）	・たばこを除けば客単価はむしろ前年を上回っており、ギフト商品の注文も入っている。景気動向はそれほど悪くないものの、やはり当店ではたばこ離れが影響しており、売上が若干減少している。この状態はしばらくの間続くのではないかとみている。
コンビニ（経営者）	・依然として厳しい状態ではあるものの、天候に恵まれれば売上にも期待ができる。また、今後に展開するカウンター販売のドーナツが、売上にどれだけ貢献するか未知数である。
コンビニ（エリア担当）	・来客数の増減など、状況が変化するような要因が見当たらない。
コンビニ（店長）	・所得があまり上がらないなかで商品の値上げが続出しており、消費者マインドは低下している。今後の天候にもよるが、この傾向はしばらく続くのではないかとみている。
衣料品専門店（経営者）	・中小企業も含めた全体に底上げの様子がみえてくることで、初めて景気回復が地方におよんだと実感できるのではないかとみている。
衣料品専門店（経営者）	・今のところ、地方の経済が上向きような要因は見当たらない。
衣料品専門店（店長）	・夏物商品のクリアランスセールに入ってから、セール前の低予算の傾向が続くとみており、来客数は増加するものの、客単価が減少するといった状況となるのではないかとみている。
衣料品専門店（店長）	・景気が良くなっていると実感できない限り、買い控えは続くとみている。
衣料品専門店（総務担当）	・景気が良くなる要因が見当たらない。
家電量販店（店長）	・地方では景気回復を実感できていない。
家電量販店（店長）	・前年と比較して消費税増税の影響が薄れており、客の景況感が良くなりつつあると実感している。また、良くも悪くもなる材料も無いため、このままの流れがしばらく続くのではないかとみている。
乗用車販売店（経営者）	・年内は消費税増税の反動減が続くとみており、新車販売数増加につながる要素も見当たらない。
乗用車販売店（経営者）	・地方の収入の格差など、現状が改善される要素が見当たらない。
乗用車販売店（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。さらに、8月は祭りやお盆などがあり、商売としては年間で最も厳しい月である。
住関連専門店（経営者）	・アベノミクスの効果はまだ地方には到達しておらず、中小零細企業が多いため賞与なども前年よりも多くは望めない。扱っているものが耐久消費財でありまだまだ買い控えがあるため、大きな回復とはならないとみている。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在の気候が続けば、販売量は横ばいの状態が見込める。しかし、輸入酒の価格が依然として安定せず値上げが相次いでいる。急に五千円近く値上がりする商品も出てきており、販売先の飲食店も困惑している。
その他専門店〔靴〕（従業員）	・景気が本格的に回復しているとはいえない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・ガソリンの卸価格の上昇による需要の減少と、景気回復がどの程度進むのかというせめぎ合いが続く見通しであり、状況は変わらないとみている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油コストの大きな変動が無い限り、現状のまま推移するとみている。
高級レストラン（経営者）	・あまり良くなる要素は見当たらない。

高級レストラン（支配人）	・今後の予約においての来客数と販売量の動きをみても、まだまだ楽観視はできない状況である。	
一般レストラン（経営者）	・株価はそこそこで、円相場も落ち着いている。今のところ状況に変化は無いようである。	
一般レストラン（経営者）	・不景気は長年続いており、消費者マインドは良くなったり悪くなったりを繰り返している。また、実質賃金が思ったほど上がっていないこともあり、今後もしばらくは足踏み状態が続くとみている。	
一般レストラン（経営者）	・夏に向かって客の消費意欲がどれだけ増えるかであるが、特に起爆剤となるような要因も無く、先行きがそれほど良くなるとは考えにくい。	
一般レストラン（経営者）	・まだまだ全体の景気が上向きになるような起爆剤は無い。さらに、当エリアは内陸部にあるため、海水浴シーズンに入れば観光客は海側のエリアに流れてしまう。ただし、逆にこの2～3か月の間に内陸部でもそれなりに購買意欲が上昇すれば、本当の意味で景気が良くなっているといえるのではないかと。	
スナック（経営者）	・そろそろボーナス時期に入るので、一時的にお金を使う客が増えるとみている。ただし、お盆休みなどの連休にお金を使うことも多いため、トータルとしてはあまり変わらないのではないかと。	
観光型ホテル（経営者）	・この後3か月間は、前年同様に入込はあまり芳しくない状況である。特に関東地区からの入込が激減している。	
観光型ホテル（スタッフ）	・来客数が増えて単価も上昇しつつあるが、売上が確実に増加する状態ではない。ほとんどの客はいまだに財布のひもが固い状態である。	
都市型ホテル（スタッフ）	・法人客の利用は前年並みであり、来月以降の予約状況もあまり変わらない。	
都市型ホテル（スタッフ）	・デスティネーションキャンペーンは今月で終了してしまうため、好調であった状況は少し落ち着いていくのではないかとみている。	
旅行代理店（店長）	・先行受注も前年並みであり、変動が無い状態である。	
旅行代理店（従業員）	・回復傾向となっても、旅行消費は半年から1年をかけてやっと回復すると言われており、しばらくは状況に変化はないとみている。	
タクシー運転手	・各地域での火山活動などが非常に大きく影響しているのか、観光客がますます激減しているように見受けられる。	
通信会社（営業担当）	・地方創生による自治体向け交付金の効果をみないと、現在では何ともいえない。また、2～3か月レベルで景気改善となる材料も見当たらない。	
通信会社（営業担当）	・中長期的にみて、良くなる材料に乏しい。	
通信会社（営業担当）	・今後も毎月様々な加入促進施策を展開していくため、大きな落ち込みも無く現在の状態が続くとみている。他社の格安スマホなどのCM展開が非常に多いことが気になるものの、ここ数か月はその影響も少ないとみている。	
テーマパーク（職員）	・客が多く購入している人気商品は比較的安価なものが多く、多少高価なものでも品質重視という状況には至っていない。	
観光名所（職員）	・夏休みに多くの来客数を見込んでいるものの、隣県に大型の観光施設が誕生するなど、厳しい状況が続くそうである。	
遊園地（経営者）	・新しい水族館のオープンの影響が大きく表れるとみている。ただし、8月末に県内の遊園地が閉園することによる多少の下支えも期待している。	
遊園地（経営者）	・新しい水族館の開業による顧客の流出を懸念している。	
競艇場（職員）	・来客促進イベントなども考案しているが、来客数や購買量の動きが固定化しており、良くも悪くも変化するような動きは無い。	
美容室（経営者）	・4月以降、全体的なベースアップ時期を過ぎても状況に変化は無い。このままの状態が続いていくのではないかと。	
設計事務所（経営者）	・復興関連の仕事がこれからという所もあるが、急に状況が良くなることは無いとみている。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・消費者は何に対しても無関心であり、客の話題も上向きなものが少ない状態である。
	商店街（代表者）	・零細企業商店主は先行きにいつも不安を抱いており、その状態は変わっていない。また、消費者も秋口にかけて本当に景気が良くなるのか不安であり、疑心暗鬼という状態ではないかと。

		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・経済的余裕があるとみていた年配の客層に、気分的な不安定さを感じる事が多く、話を聞いてみると、家庭的なこと、健康上のこと、何かと多くの問題を抱えている様子である。健康な高齢者が保健薬を買い求めるという従来の消費パターンが少なくなっており、当店において主たる客層であった高齢者層が、経済的なことも含めて余裕を失っているように見受けられる。
		百貨店(売場主任)	・好天続きと気温の上昇により、夏物商品の動きが前倒しとなっており、クリアランスセールは動向が懸念される。また、その後の晩夏商戦、秋物定価品の動向に関しても、トレンドの先取り購入よりも、ジャストシーズン商品を自分の判断で購入する傾向が強くなってきている。
		コンビニ(経営者)	・リニューアルオープンから1か月たったが、売上が前年を超えることはなかなか難しい。景気はやはり良くないのではないか。
		コンビニ(エリア担当)	・単価までが落ち込んでくると、物が売れない状況が続くことになる。このままでは経済は活気付かない。
		衣料品専門店(店長)	・ここひと月の客の様子からは、慎重に買物をする傾向が顕著にみられている。前年は残暑、猛暑で夏の需要が動いたが、今年は前年ほどにはならない見込みであり、厳しいのではないか。
		乗用車販売店(従業員)	・ボーナスが出ている会社が結構あるが、一向に来客数が増えずに、売れているものも低価格のものばかりである。
		乗用車販売店(店長)	・当面の間は新型車の発表も無いため、あまり良い状態ではない。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・天候不順が予想されていることが、これから夏に向けてマイナスに働くとみている。
		その他専門店〔パソコン〕 (経営者)	・確定した先行きが見えず、お金が末端にまで流れていかないため、これからは厳しい状況は変わらない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕 (営業担当)	・夏場の商品の売行き動向は毎年変化をしている。また、クールビズが十分浸透してきているが、その分ライバルも増えて価格競争に巻き込まれている。そのため、ますます低価格、低利益の状況が進むとみている。
		タクシー運転手	・前年の消費税増税でぐんと客が減少した。この先に予定されている消費税率10%への引上げも客は意識している様子である。
		通信会社(営業担当)	・消費税率10%への引上げを控えて、ますますコスト削減要求が高まるとみている。
		美容室(経営者)	・数々の物価が上昇しても、給与や賞与が上がらないという客が多く、地方ではなかなか景気が回復していない状態である。
	悪くなる	商店街(代表者)	・見通しは真っ暗の状態である。
		コンビニ(経営者)	・7月1日からプレミアム付商品券が発売されるが、動き次第では6月のように悪いままの可能性はある。
		コンビニ(店長)	・競合店の出店の影響が更に大きくなるとみている。
		衣料品専門店(経営者)	・クールビズの影響で夏は上着を着ないでノーネクタイのため、ここ数年はスーツを購入する客が減少している。
		自動車備品販売店(経営者)	・繁忙期もどこ吹く風で空振りに終わった感がある。自動車部品代理店や問屋はまだまだかつて経験したことの無い状況にあり、景気にかかわる良い材料も無いため先が見えない状況である。
企業動向 関連	良くなる	建設業(経営者)	・受注量は順調である。しかし、技術者不足及び資材の値上がりにより工事単価が高騰しており、利益率が悪くなっている。
(東北)	やや良くなる	農林水産業(従業者)	・モノの収穫時期が例年より5日程早まると予想されており、主力品種がお盆前に最盛期を迎えるため、販売価格が良くなることを期待している。
		食料品製造業(経営者)	・輸入材料を使っているため、これ以上の円安は好景気へのブレーキになる恐れがあるものの、今のところ特に悪くなる要素は見当たらない。
		輸送業(経営者)	・当社の取引荷主から増産計画が発表されており、物量増加が見込まれている。また、そのための体制づくりも進んでいる。
		輸送業(従業員)	・夏季になり、新たな荷動きが見込まれている。
		広告代理店(経営者)	・水族館の新規オープンにより、広告業界が活性化することを期待している。
		経営コンサルタント 司法書士	・本格的な夏を迎えて、消費が活発化するとみている。 ・住宅ローンが低金利で推移しており、今後の消費税率10%への引上げに向けて、前倒ししての住宅建築の受発注が見込まれている。

	公認会計士	・消費税増税の影響から抜け出して、このまま小売業関係の売上などが回復すれば、景気は上向くとみている。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・前年、一昨年と非常に景気の悪い状況のなかで進んできており、前年には消費税が増税されて価格もいろいろ高騰している。しかし、今年に入ってからには購買に慎重な姿勢は変わらないものの、意外と欲しいものや必要なものは購入している状況であり、節約ムードはあまりみられなくなっている。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・プレミアム付商品券の発売が好評である。地元観光ホテルや旅館での飲食及びお土産需要に期待している。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅内覧会增加しているため、それに伴う販促品の受注が増えるのではないかとみている。また、住宅リフォームへの関心にもつながるとみている。	
	金属工業協同組合（職員）	・半導体関連は、ようやく在庫調整などから脱しつつあり、受注量及び見積件数が増加傾向になってきているものの、単価は非常に厳しい状況である。自動車、医療機器、林業機械関連はまずまずであり、蓄電関連は減少している。総じて事業内容により温度差がある。	
変わらない	食料品製造業（営業担当）	・今のところ受注量が増加する要因がないため、厳しい状況が続く見通しである。	
	食料品製造業（総務担当）	・今後2～3か月は、現状の政策や企業業績などに大きな変化はないとみている。	
	繊維工業（経営者）	・店頭の売行き次第である。	
	木材木製品製造業（経営者）	・住宅の価格競争の状況から、早急な収益の改善は厳しいとみている。	
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・特にこれといったものが無いため、自社商品を増やすしかない状況である。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・受注量は横ばいもしくは弱含みの状態であり、変化は無い。また、同業他社も同様に横ばい状態のようである。	
	土石製品製造販売（従業員）	・しばらくは大きな工事もなく、予算通りの工事のみのため、景気に左右されることは無いとみている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・直近の受注動向は、顧客によりばらつきはあるものの総じて低調である。また、先行きにおいて急激に増加に転じる要因も見当たらない。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	・特に変化は無いとみている。ただし、現在の受注は短納期及び小ロットが中心であり、これが途切れると苦しくなる可能性がある。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・今後2～3か月は現在の好調な状態を維持するとみている。	
	建設業（従業員）	・定期的に補正予算の動向が決定する前であり、大きな変化は無い。	
	建設業（企画担当）	・オリンピック絡みの影響が多少あるとみているが、しばらくは現在の状態で推移する。	
	通信業（営業担当）	・予算を許さない状況であり、今後も継続して顧客に対するきめ細やかな働きかけを行っていく必要がある。	
	通信業（営業担当）	・政治次第である。	
	金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。	
	広告代理店（経営者）	・地方経済の動きにはいまだ不透明感が漂っている。また、現在の動向による成果が出てくるのは秋以降である。	
	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・プラス、マイナスの両方の要因があり、現在の状況が続くとみている。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・アメリカ政府のTPP交渉権限を大幅に強化する法案がアメリカ議会でも可決されたことで、TPP交渉が日本の農業に悪影響を及ぼすことが一層不可避になるとみている。	
	通信業（営業担当）	・国内の物価高と海外政情不安定な動きにより消費が冷え込むとみている。	
	広告業協会（役員）	・株高やベースアップなどによる消費の盛り上がり期待していたが、意外に伸びなかったことで地元業界は苦戦している。また、大型水族館の開業があるものの、夏休みを控えて申込が殺到しているため、広告はするに及ばない状態である。	
	コピーサービス業（従業員）	・一部の仕入価格において値上げが予定されているが、販売価格に転嫁できるか不安である。	
悪くなる			
雇用関連 (東北)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・マイナンプー需要により、印刷業界、IT業界が求人を含ん引するとみている。
		アウトソーシング企業（社員）	・細かい仕事の問い合わせが来ているので期待したい。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は引き続き上昇傾向にある。

	職業安定所（職員）	・長期の育成を前提とした新規学卒者向けの求人が増加していることから、今後も景気が上向いていくと企業が判断している様子がうかがえる。
	職業安定所（職員）	・27年5月の月間有効求人数は依然として高水準で推移しており、有効求人倍率は1.3倍台と高い水準である。また、27年6月の有効求職者は減少して、前年同月以上に有効求人倍率が高くなるとみている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・統合などの組織強化の推進で、2～3か月先は上向き傾向になるとみている。
	人材派遣会社（社員）	・今の大学3年生に向けて、インターンシップを企画する企業が前年よりも倍増している。まだまだ先の採用に対して手を打っていることから、景気が良い状態がこのまま続くのではないかとみている。
	人材派遣会社（社員）	・人手不足から、売上拡大施策としての出店は厳しい状況である。取引顧客からは現状維持が精一杯だと聞いている。
	人材派遣会社（社員）	・求職者減に伴う求人とのミスマッチは今後も続くともみている。また、労働者派遣法改正に伴うネガティブな報道が、求職者の派遣離れにつながる可能性も懸念している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地方選を含め、国会の審議などが夏場過ぎまで延長される結果、経済活動が停滞気味になるのではないかと。地方は特にそのあおりを受けやすいとみている。先行きは不透明である。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地方では景気回復の実感がわかないため、雇用の形態も改善しないのではないかとみている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・正規雇用の拡大がみえない状況であり、依然として求人広告の申込は低調である。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は3か月連続で減少している。3か月ごとの更新で未充足となった求人が新たに出されており、ここしばらくはこの状態が続くとみている。
	職業安定所（職員）	・求人数、求職者数の減少傾向と建設業、医療、福祉業を中心にほとんどの業種で人手不足が続く状況に変化はなく、雇用情勢に変化をもたらすような情報も特には見当たらない。
	職業安定所（職員）	・管内の事業所の様子や、求人、求職の状況からみて、大きな雇用変動要因は今のところ見当たらない。そのため、現在と同じ状況がしばらく続くとみている。
	職業安定所（職員）	・求人の状態はここ数か月と変わりなくやや微減のまま安定している。現在のところ企業の大規模な創業、管内への進出、また大規模な人員整理の情報も無く、近隣地域での求人の好調は聞こえてくるものの、近い将来の求人動向としては大きな変化はみられない。
	職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比は増加や減少を繰り返しており、今後もこのような動きに大きな変化はないとみている。
		民間職業紹介機関（職員）
やや悪くなる		
悪くなる	-	-